

「神戸六甲ミーツ・アート 2026 beyond」 第2弾 出展アーティスト14組を発表 ～4月1日(水)から早割パスポートを販売開始～

六甲山観光株式会社(本社:神戸市灘区 社長:妹尾昭孝)は、2026年8月29日(土)～11月29日(日)まで神戸・六甲山上を舞台とした現代アートの芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート 2026 beyond」を開催します。

この度、新たに招待アーティスト14組が決定しましたのでお知らせします。第1弾で発表した招待アーティストと合わせて、計20組の出展が決定しました。今年は公募アーティストを含め、約60組が出展予定です。

また、2026年4月1日(水)～5月31日(日)の期間、各種鑑賞パスポートを通常価格よりもお得な早割価格にて販売いたします。

なお、本芸術祭の拠点となる ROKKO 森の音ミュージアム内、SIKI ガーデン～音の散策路～では、草間彌生《南瓜》を特別寄託作品として2026年3月14日から先行公開しています。

※各アーティストのプロフィールについては別紙をご覧ください。

※公募アーティストは4月5日(日)まで募集し、6月1日(月)に発表予定です。

詳しくは公式 Web サイト(<https://www.rokkomeetsart.jp/>)をご確認ください。



草間彌生《南瓜》2014年 ©YAYOI KUSAMA

【第2弾招待アーティスト】 ※50音順、敬称略

伊藤大寛、伊藤幸久、井上涼、加治聖哉、古巻和芳、佐藤圭一、四方謙一、鈴木泰人、棚田康司、仲順れい、中野信子、船井美佐、宮寄浩、わにぶちみき

◆早割 鑑賞パスポート

【販売券種】

- (1) 昼夜パス…有料会場+「ひかりの森～夜の芸術散歩～」会場への入場
- (2) 昼パス……有料会場への入場
- (3) 夜パス……「ひかりの森～夜の芸術散歩～」会場への入場

【販売期間】

2026年4月1日(水)～5月31日(日)

【販売場所】

イープラス、チケットぴあ、asoview!、ローソンチケット、ArtSticker、HHcrossTOWNS、Triplabo、楽天トラベル 観光体験

■「神戸六甲ミーツ・アート 2026 beyond」開催概要

【会期】2026年8月29日(土)～11月29日(日)

【会場】ミュージアムエリア(ROKKO 森の音ミュージアム、六甲高山植物園、新池)、六甲ガーデンテラス
エリア、自然体感展望台 六甲枝垂れ、天覧台、他六甲山上各所

■「ひかりの森～夜の芸術散歩～」開催概要

【会期】2026年9月19日(土)～11月29日(日)の土日祝

【会場】ROKKO 森の音ミュージアム、六甲高山植物園

【料金】

種類	販売期間	昼夜パス (10:00～20:00) <small>※夜はひかりの森開催日のみ</small>		昼パス (10:00～17:00)		夜パス (ひかりの森開催日の 17:00～20:00)	
		大人	小人	大人	小人	大人	小人
早割	4月1日(水)～5月31日(日)	3,800円	-	2,800円	-	1,800円	-
前売	6月1日(月)～8月6日(木)	4,000円	-	3,000円	-	1,850円	-
直前割	8月7日(金)～8月28日(金)	4,100円	-	3,100円	-	1,900円	-
Web割	8月29日(土)～11月29日(日)	4,200円	-	3,200円	-	1,950円	-
山上窓口	8月29日(土)～11月29日(日)	4,300円	1,800円	3,300円	1,300円	2,000円	1,000円

※大人＝中学生以上、小人＝4歳～小学生、3歳以下無料

※4歳～12歳を対象とした「お子さま2,000人無料招待キャンペーン」を実施予定。詳細は決定次第お知らせします。

【主催】六甲山観光株式会社、阪神電気鉄道株式会社

【共催】六甲摩耶観光推進協議会

【特別助成・協賛】神戸市、阪急阪神ホールディングス株式会社

【助成】公益財団法人 神戸文化支援基金

【助成・協力】公益財団法人 神戸市民文化振興財団

※2026年3月現在の情報です。

※情報の追加・変更については公式 Web サイトでお知らせします。

【資料に関するお問い合わせ】

神戸六甲ミーツ・アート事務局

TEL: 078-891-0048 (平日10:00～17:00)



公式 Web サイト

出展決定 招待アーティスト

伊藤大寛

2000年 奈良県出身 大阪府在住
2025年 広島市立大学大学院 芸術学研究科 彫刻専攻 修了

「愛と彫刻」をテーマに自身の体験、経験談や歴史上の人物にインスピレーションを受けながら作品を制作している。



photo by Takuma Mimatsu

伊藤幸久

1981年 東京都出身、石川県在住
2013年 金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科 博士課程 満期退学 博士(芸術) 学位取得

彫刻家。陶や FRP による人物像を中心に制作している。素材の意味性や場の特性を重視しながら、人物が置かれる状況を探求する。鑑賞者が他者を見て誤解しながら把握し、関わっていくように、作品を見てもらうことを考えている。近年は植物や AR (拡張現実)を用いた展示にも取り組み、彫刻の可能性を広げる試みを続けている。



井上涼

1983年 兵庫県出身・東京都在住
2007年 金沢美術工芸大学美術工芸学部デザイン学科視覚デザイン専攻卒業

2013年より世界の美術を歌とアニメで紹介する NHK E テレの美術番組「びじゅチューン！」で作詞、作曲、歌、アニメを担当。
2016年から2024年まで毎日小学生新聞でまんが「井上涼の美術でござる」を連載。全国各地の美術館で展覧会を行っている。
他の作品に「赤ずきんと健康」「確信」などがある。



加治聖哉

1996年 新潟県出身、新潟県在住
2018年 長岡造形大学 造形学部 美術工芸学科卒業

大学在学中より多くの地域に作品を提供。大学卒業後は村上隆のスタジオにて就労、その後廃材を用い原寸大の動物を創るアーティストとして独立。2023年にアトリエ「sokoso-ko」を開設。工務店や飲食店などから譲り受けた、木の廃材にこもる人の軌跡を受け継ぎ、血が巡り、筋肉が収縮し、毛がなびく動物へと生まれ変わらせている。大工だった祖父より受け継いだ技術で強度と造形美を実現している。



出展決定 招待アーティスト

こ 巻 かず ぶみ 古巻和芳

1967年 兵庫県出身・在住
1989年 神戸大学経営学部商学科卒業

宝塚市で呉服屋の息子として生まれる。1990年代から花をモチーフとした絵画作品を制作。

2006年に越後妻有アトリエンナーレ「養蚕プロジェクト」への参加以降は、港都KOBE芸術祭など国内各地の地域芸術祭で土地の「記憶」をテーマにしたサイトスペシフィック作品を発表してきた。

近年は、養蚕に縁が深い桑の木を素材に人物像を彫ったことがきっかけとなり、「skywalker」と名づけられた糸の上に佇立するバランス彫刻を手がけている。



Photo by 井上さおり

さ と う 圭 一 佐藤圭一

※2023年より継続展示

1966年 東京都生まれ、東京都在住
1994年 東京藝術大学 大学院 彫刻専攻修了

アイデアはいつも情景として頭の中に現れます。その情景を造形上の問題を解決しながら、設定に合わせ忠実に再現することが私の制作です。私にとって作品とは自己表現というよりも、「勝手にそこにいるモノ」という感覚を強く持っています。制作したのは確かに私なのですが、その事とは別に、特に展覧会などでは強くそう感じてしまいます。そして、それらの「いる場所」では私の意図するしないに関わらず生き活きた時間流れてゆき、私はそれをいつも憧れのような気分で眺めてしまいます。今回の作品も六甲山の開放的な空気の中で贅沢な時間を過ごしてくれればと願っています。



し か た けん いち 四方謙一

1983年 京都府出身・千葉県在住
2007年 早稲田大学芸術学校建築設計科 卒業

早稲田大学芸術学校在学時より、野老朝雄氏に師事。光や素材を用いて「場」の構造を顕わにし、環境や状況の変化と観覧者が相互作用する装置として、彫刻、インスタレーション、写真などの作品を制作する。これまで、越後妻有 大地の芸術祭冬、東京ビエンナーレ、奥能登国際芸術祭、UBEビエンナーレに参加。主な作品に、MIYASHITA PARKでの「Flowing time reflecting on the river」、大阪国際空港の6作品群「GLOWING GROWING GROUND」がある。



photo by 近藤央希

す ず き やす ひと 鈴木泰人

1979年 神奈川県出身・在住
2011年 多摩美術大学 大学院美術研究科 絵画専攻 修士課程 修了

光や音、空間、場所性をテーマに、ふだんは意識されにくい事象を手がかりとして制作している。絵画を出発点に、「はかる」「ならべる」「記憶する」といった行為を制作の軸とし、人々の記憶や気配など目に見えない要素を形や音へと置き換えてきた。近年はリサーチや滞在制作を通じて音を集め、それらを組み合わせ直しながら作品へと展開している。展示や発表、トークを通じて、体験を他者と共有できるかたちへとひらいている。



出展決定 招待アーティスト

たな だ こう じ 棚田康司

1968年 兵庫県出身、神奈川県在住
1995年 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

2001年に文化庁芸術家在外研修員としてドイツ・ベルリンに滞在し、その後も2015年にインドネシアやシンガポールで滞在制作を行うなど、異なる文化圏での経験を重ねてきた。制作の軸には一貫して木彫があり、日本古来の技法である「一木造り」によって人間像を彫り続けている。その作品は、大人と子ども、人間と自然、個人と社会といった境界線の「あいだ」に立ち現れ、無限の広がりを感じさせる。



Photo by Kazumi Kiuchi

なか じゆん 仲順れい

1983年 兵庫県出身、大阪府在住
2005年 宝塚造形芸術大学ビジュアル&アドバタイジング(V&A)コース卒業

2001年、大学在学中に切り絵制作を始める。
卒業後、約1年間ロンドン芸術大学にてアートを学ぶ。
女性・人体・昆虫・植物を主要なモチーフとし、繊細なドローイングを切り絵へと昇華させる独自の手法で制作。精神性や死生観に加え、現代社会のリアルを扱う作品も展開している。



なかの のぶこ 中野信子

1975年 東京都出身、東京都在住
2023年 東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻 博士後期課程 ABD

中野信子は、脳科学者、評論家、医学博士。東京大学工学部応用化学科卒業、同大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻博士課程修了。東日本国際大学教授、京都芸術大学客員教授。脳科学の知見をもとに評論・メディア活動を行う一方、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科博士後期課程を2023年に修了。科学とアートの関係性を探究し、2022年より脳波を用いた展覧会の企画・キュレーションにも取り組んでいる。



ふない みさ 船井美佐

※2023年より継続展示

1974年 京都府生まれ、東京在住
2001年 筑波大学 大学院 芸術研究科修了

船井美佐は「楽園」と「境界」をテーマに、絵画によるインスタレーションを制作しています。

線描による即興のドローイングや、シェイプドキャンバスと鏡によって空間を構成するシリーズがあり、見るものがイメージの境界に入り込むような空間を作り出します。二次元と三次元、想像と現実、過去と未来を交差させることで、みえないものを形に表し、イマジネーションの力で新しい未来を形作ります。



出展決定 招待アーティスト

みや ぎき ひろし
宮崎浩

1982年 大阪府出身・滋賀県在住
2007年 立命館大学理工学部土木工学科卒業
2018年 関西大学大学院文学研究科 総合人文学専攻 教育学専修 博士課程前期課程修了

アーティスト／教育者。
場所や素材、記録といった具体的な手触りを起点に、不可視の現象や時間の層を扱うインスタレーション作品を制作している。
旅や身体的体験から立ち上がる感覚を起点に、世界を「味わう」ことを大切に、その場に生まれる気配や記憶の重なりを探求している。



わにぶちみき

1981年 大阪府出身・在住
2004年 近畿大学文芸学部芸術学科卒業
2012年 英国ボーンマス芸術大学大学院美術修士課程修了

わたしは「風景から色を抽出する」という一点にだけフォーカスした、極限まで抽象化された「風景画」を描きます。それは、ITの発達した現代社会における風景の見方に対する問題提起であり、誰でも簡単に記録・閲覧することができるようになった「風景」の本質に気づききっかけとしての作品を目指した制作です。



資料に関するお問い合わせ

六甲山観光株式会社／神戸六甲ミーツ・アート事務局
TEL:078-891-0048 (平日 9:00~18:00)